

日本医史学雑誌第四十八巻 総目次

原 著

医学館における医学考試について (一)

戸出 一郎……………三

『解体新書』の原著者クルムスについての研究

石田 純郎……………三

華岡青洲の「乳巖姓名録」の研究——個別の

症例記録との比較検討……………松木 明知……………五

Mohnike and vaccination: Deshima-doctor

in the wake of Von Siebold……………Harmen BEUKERS……………一五

『重訂解体新書』所引の中国書籍の研究——

『医学原始』と『物理小識』について……………陶 惠寧……………一五

新に確定された青洲の乳癌患者三名の死亡年月日……………松木 明知……………一五

医学館における医学考試について (二)……………戸出 一郎……………一八五

多御少女房中術に関する医学的検証……………嚴 善昭……………二〇五

故松原三郎博士遺品中の一文書、イディッシュ語で……………書かれた医史学史料……………泉彪之助・正橋剛二……………五二

日本におけるファン・スウィーテン水の受容……………高橋 文……………五五

On the Background of Engelbert Kemper's……………Studies of Japanese Herbs and Drugs……………Wolfgang Michel……………二一〇

研究ノート……………異本本草紙の伝本に就いて……………林 美朗……………六

日韓生薬学交流史——杉原徳行の業績と評価……………渡辺晴香、金 善珉、丁 宗鐵……………二九

大正三年、東京における発疹チフスの……………大流行について——防疫行政面からの一考察……………渡部 幹夫……………五七

ひろば……………関寛斎「御容体心覚」……………芝木 秀哉……………八

田代和生著『江戸時代朝鮮薬材調査の研究』への……………コメント——科学史の立場から提出されている……………史料を読む……………山田 慶兒……………六七

史料「故 Jo. Ad. クルムス博士の手稿からの抜粋」……………吉益家門人録(四)……………町 泉寿郎……………三六

癸亥 春林軒続薬方册(三)……………高橋 均、坂田育弘、児玉重隆……………三九

「達生園門生録 附醇生庵探領伝授録」について……………

追悼

池田文書の研究(二十四)……………梶谷 光弘……………二六七  
 手塚良斎「医学所御用留」(五)……………深瀬 泰且……………二六八

追悼 吉田 信先生……………島田 保久……………二九七  
 大村敏郎先生を悼む……………大滝 紀雄……………二九九  
 長崎学の泰斗 中西 啓先生を悼む……………相川 忠臣……………三〇一  
 さようなら、古川 明先生……………金山 知新……………三〇四  
 矢数道明先生を偲ぶ——その足跡……………小曾戸 洋……………三〇七  
 杉先生のご迎去を悼む……………七木田文彦・瀧澤 利行……………三六一

記事

例会抄録

関東大震災と横浜「関西村」の病院について

中西 淳朗……………二〇四

大英図書館のスタイン医薬文書……………真柳 誠……………二〇六

江戸幕府寄合医師添田玄春の日々の暮し……………深瀬 泰且……………三〇四

断種法史上の人びと(その五)——三宅鏡一……………岡田 靖雄……………三〇六

日本医史学会史資料供覧……………岡田 靖雄……………三〇四

また江戸幕府寄合医師添田玄春の日々の暮し……………深瀬 泰且……………三〇六

日本における義肢装着者の生活援護史研究……………坪井 良子……………三〇七

相州小田原の医史片々……………中西 淳朗……………三〇九

書籍紹介

黄 煌『中医伝統流派の系譜』……………安井 廣迪……………二〇八

正木 繁『消印は知っていた』……………蔵方 宏昌……………二〇〇

C・D・オマリー『ブリュッセルのアンドレアス・ヴェサリウス 一五一四—一五六四』……………藤田 尚男……………二二

新村 拓『在宅死の時代——近代日本のターミナルケア』……………杉田 暉道……………二二三

吉田 忠・深瀬泰且編『東と西の医療文化』……………蒲原 宏……………二二五

瀧澤利行『養生の楽しみ』……………鈴木 則子……………二二七

川原秀城『毒薬は口に苦し』……………吉元 昭治……………二二八

『宗田文庫目録』……………奥沢 康正……………二三〇

『大同薬室文庫蔵書目録』……………小曾戸 洋……………二二三

神戸十四郎編『宮崎県医史懇話会二十二年の歩み』……………中西 淳朗……………二二三

見市雅俊ほか編『疫病・開発・帝国医療』……………渡部 幹夫……………二二九

中西淳朗『仙花堂医史往来』……………北小路博央……………三〇〇

澤田祐介『蘇る医神アスクレピオスの物語』……………星 和夫……………三二二

加納善光『風水と身体』……………猪飼 祥夫……………三三三

杉浦守邦『カルテ拝見 武将の死因』

蔵方 宏昌…………… 六七〇

坪井良子『日本における義肢装着者の生活援護史研究』

篠田 達明…………… 六七二

杉立義一『お産の歴史』

石原 力…………… 六七三

杉本つとむ『江戸の阿蘭陀流医師』

中西 淳朗…………… 六七五

野間祐輔『二宮敬作と彼をめぐるひとびと』

秋山 正治…………… 六七七

酒井シヅ『病が語る日本史』

杉立 義一…………… 六七八

外山幹夫『医療福祉の祖 長与専斎』

中西 淳朗…………… 六七九

文庫めぐり

岡山大学附属図書館鹿田分館…………… 至

鸚軒文庫…………… 至

文教大学越谷図書館池田文庫…………… 六〇

龍谷大学大宮図書館…………… 三八

高知県立牧野植物園牧野文庫…………… 五七四

津山洋学資料館…………… 五七六

医史学文献目録 平成十二(二〇〇〇)年…………… 四八〇

順天堂大学医史学研究室編…………… 四八〇

第一〇三回 日本医史学会・第三〇回 日本歯科  
医史学会 合同総会 演題 目次

特別講演(1)

新潟県における医学教育前史…………… 蒲原 宏…………… 三三

特別講演(2)

日本医史学会と日本歯科医史学会…………… 谷津 三雄…………… 三六

一般口演

1 飛鳥家庭園跡出土木簡「西州統命湯」の  
出典について…………… 小曾戸 洋・真柳 誠…………… 三八

2 『玉葉』における九条兼実の湯治…………… 寺川 華奈…………… 三三〇

3 三位法眼と半井明重…………… 石原 力…………… 三三三

4 『雲庵抄』について…………… 宮川 浩也…………… 三三四

5 『維摩経』にみる医の心…………… 杉田 暉道…………… 三三六

6 明治期発行の医籍録に掲載された新潟県内の  
医師・歯科医師人名…………… 樋口 輝雄…………… 三三八

7 近藤家文書について——大森寿庵と越後の  
眼科医近藤文泰…………… 広瀬 秀…………… 三四〇

8 長岡市出身の医学者・榑野直の筆記ノートに  
ついて…………… 唐沢 信安…………… 三四三

9 陸軍航空医学…………… 黒澤 嘉幸…………… 三四四

10 十五年戦争と日本民族衛生学会(協会)  
…………… 助 昭三…………… 三四六

- 11 藤浪鑑教授とがんの疫学調査(二) 林直助教授の協力と戦後の研究への寄与……………青木 國雄……………三〇八
- 12 福岡医科大学創設者・大森治豊……………佐藤 裕……………三〇〇
- 13 横浜三島堂病院略史……………中西 淳朗……………三〇三
- 14 植民地時代朝鮮のハンセン病医療に従事した医師周防正季……………魯 紅梅……………三〇四
- 15 血圧測定 of 創始者ステファン・ヘイルズ……………藤倉 一郎……………三〇五
- 16 一〇一年前のドイツ留學生の絵葉書——プレスラウの今昔比較……………石田 純郎・小田 皓二……………三〇六
- 17 未発表文献 (Mirachon 文書) によるパリ一般病院の誕生……………清水 陽人……………三〇七
- 18 ナチスの「安楽死」作戦とミュンスタール司教フォン・ガールン……………泉 彪之助……………三〇八
- 19 グレート・オーモンド・ストリート小児病院の設立について……………柳澤 波香……………三〇九
- 20 画家トウールーズ・ロートレック (1864-1901) の疾患について……………小林 晶……………三一〇
- 21 大正四年看護婦規則制定以前に使用されていた看護婦の名称について……………平尾真智子……………三一六
- 22 GHQ による戦後の看護教育カリキュラムの成立と経緯……………佐藤公美子・坪井 良子……………三七〇
- 23 “American Journal of Nursing” の記事に見る二〇世紀の日本の看護……………大石 杉乃……………三七三
- 24 二十世紀前半における京都・岩倉の「国際化」について(その二)……………橋本 明……………三七四
- 25 昭和戦前期の精神医療におけるジェンダーバイアス……………鈴木 晃仁……………三七六
- 26 製本おそるべし——『神経学雑誌』のばあい……………岡田 靖雄・小峯 和茂……………三七八
- 27 日本の敗戦直前後の医事雑誌と発刊事情……………寺畑 喜朔……………三八〇
- 28 ハノイ現存古医籍の特徴……………真柳 誠……………三八三
- 29 『口齒類要』における歯痛に関する考察……………西巻 明彦・寺師 睦宗……………三八四
- 30 古典医書における字から詞へ変化例……………郭 秀梅・加藤 久幸……………三八六
- 31 疾病史に見る時代区分について……………小曾戸明子……………三八八
- 32 「脈経」二十四脈状解析——「脈経」中における浮脈と他脈状の関係……………中川 俊之……………三九〇
- 33 『甲乙経』における刺入深度・呼数の一考察……………吉岡 広記……………三九三
- 34 鍼灸書における婦人病証——漢代から唐代まで……………木場由衣登……………三九五
- 35 鬼眼穴の考察……………上田 善信……………三九六
- 36 『延寿院切紙』における導道……………遠藤 次郎・中村 輝子……………三九八
- 37 曲直瀬道三と佐野——「足利の三冊」の検討……………中村 輝子・遠藤 次郎……………四〇〇

50	一九世紀中期の日本と西欧の義歯の比較 ..... 新藤 恵久.....	四二六
49	Jack Dresch の補綴学への貢献について ..... 平田 幹男.....	四四〇
48	「病草子」にあらわれた歯科疾患風俗に関する 一考察」第三報 ..... 湯浅高行・藤野瑠男・屋代正幸.....	四三三
47	王朝文学時代の歯科医療..... 東 智.....	四三〇
46	江戸時代の化粧と医療——『容顔美艶考』と 『都風俗化粧伝』の分析を中心に ..... 鈴木 則子.....	四一八
45	『古事記』の中の身体に関わる表現 ..... 計良 吉則.....	四一六
44	中国伝統医学と道教 (第二十三回) 「神仙」 ..... 吉元 昭治.....	四一四
43	三輪愿「葉真途異語」と三輪試「大和医語」 ..... 友部 和弘・小曾戸 洋.....	四一二
42	『重訂解体新書』所引の中国書籍の研究 (医書について)..... 陶 惠寧.....	四一〇
41	旧約聖書和訳過程における鳥類名称の 取扱いについて..... 水谷惟紗久.....	四〇八
40	モグサの産地としての伊吹山の歴史 ..... 鶴田 泰平.....	四〇六
39	吉益東洞「医方古言」攷..... 館野 正美.....	四〇三
	松平忠信の古方派批判 ..... 町泉寿郎・花輪壽彦・寺澤捷年.....	四〇四
51	ガレノスとヴェサリウスの解剖学の比較研究—— 筋系を例にとつて..... 坂井 建雄.....	四三八
52	ガスパール・ポーアン「Theatrum Anatomicum」 について (三)——De Corporis Humani Fabrica: Libri III (1590) の分析..... 月澤美代子.....	四三〇
53	フォルヘー・コイターの解剖学——研究対象の 措定をめぐつて..... 澤井 直.....	四三三
54	スネイプ「馬体解剖学」(英文) 一八六三年に ついて..... 松尾 信一.....	四三四
55	レオナルド解剖手稿の心臓記述に関する 年代的考察 (第二報)..... 永田 和弘.....	四三六
56	解体新書以降の医歯学書に見られる歯科用語の変遷 ..... 嶋村昭辰・小林 繁・上瀧口武.....	四三八
57	桐村克己著「歯の養生法」の原資料の疑義に ついでの研究..... 森山 徳長.....	四四〇
58	ボードインのもたらした新しい神経生理学 ..... 相川 忠臣・ハルメン ボイケルス.....	四四三
59	ケーニヒスベルグ大学と大阪大学 (生化学で結ばれる橋)..... 柴田 幸雄.....	四四四
60	野口英世著「Serum Diagnosis of Syphilis」 (一九一〇初版)の出版とその経緯について ..... 会田 恵.....	四四六
61	石塚三郎旧蔵・新潟県歯科医師会日誌—— 草創期の歯科界を探る..... 佐藤 泰彦.....	四四八

62	初代厚生大臣木戸幸一自筆の血脇守之助への書簡 (委員委嘱状)……………山岸徳太郎・森山 徳長 長谷川正康・石川 達也…………… 四〇	69	最後の高等学校(その二) ……………水川 秀海・嶋村 昭辰…………… 四〇
63	日本大学歯学部創設者佐藤運雄先生の医術・ 歯科医術開業免状について ……………工藤逸郎・三宅正彦・見崎 徹…………… 四三	70	陸軍で用いられた歯科嚢と歯科機械 ……………下総 高次…………… 四六
64	熊本県近代文化功労者として顕彰された 一井正典について……………松本 晋一・渋谷 敦…………… 四四	71	歯科医史学と色彩学の関連性の考察 ……………陶 粟畑・西巻 明彦…………… 四六
65	岩ヶ崎接種結核事件に関するGHQ文書について ……………渡部 幹夫…………… 四五	72	シーボルト記念館蔵の「阿蘭陀草花鏡図」と その背景について……………ヴォルフガング・ミヒエル…………… 四七
66	戦後日本の外国人医師導入——導入プロセスと 認識を中心に……………今野 卓美…………… 四八	73	華岡青洲が全身麻酔薬を使つて行つた 乳癌手術を欧米に紹介したのは誰か? ……………高橋 均…………… 四七
67	農村医学の発展——「農夫症」をめぐる ……………杉山 章子…………… 四六	74	新たに確定した「乳巖姓名録」中の患者 二三名の歿年月日について……………松木 明知…………… 四七
68	戦後の視覚障害原因の推移と医療の対応 ……………高林 雅子…………… 四三	75	彌性園蔵 幕末期の診療録……………田中 祐尾…………… 四七
		76	池田文書からみたお玉ヶ池種痘所開設の前夜 ……………深瀬 泰旦…………… 四七